図書館だより 第34号

鹿児島国際大学附属図書館報

The International University of Kagoshima Library

目　次
Contents

■ 図書館長挨拶 …… 2P
「大学図書館と私」　吉田　春生

■ Book of Life ～私と図書館～ …… 3～4P
「英国図書館で考えたこと」　小林　潤司
「読書の薦め」　藤田　淳二

■ 図書館サポーター活動報告 …… 5P

■ あなたのお悩み解決し隊!! …… 6～7P
(第10回：文庫・新書の探し方)

■ Library Report …… 7～8P

図書館長挨拶

大学図書館と私

附属図書館長　吉田　春生

私は本年の４月から図書館長の職に就いている。図書館学を学んだわけでもない私にとっては大変な重荷だが、2000年に本学に赴任して以来、大学図書館にはかなりお世話になっており、断るわけにもいかなかった。本学だけでなく、他大学も含めた大学図書館の存在は研究者にとってありがたいものだと身をもって体験していたことも引き受けざるを得ない理由となった。

例えば、次のようなことである。

赴任した初年度は担当コマ数が少なく、研究に時間を割くことができた。その際、全国のさまざまな大学から雑誌・紀要のコピーや、書籍を貸与される相互利用の仕組みをかなり活用させてもらった。中でも記憶に残るのは、現在は総合企画室長の小林さんに南九州大学付属図書館（当時の所在地は宮崎県高鍋町）へ連絡をしていただき、そこで半日、かなり以前の「国立公園」という月刊誌のバックナンバーにおける報告や論文をチェック・確認し、コピーさせてもらったことである。そこでの作業は、観光という社会現象の原理や理論を構築していく上で私にとって避けることのできない順路だった。2000年当時流布していた通説に、エコツーリズムは1982年の第３回「世界国立公園会議」で議題となって普及したというものがあった。外国の複数の研究者の書物では、1980年代の後半にエコツーリズムという言葉が生まれたとされており、それは矛盾していた。私自身は他の観点からもそこに疑問があった。通説の発端となった人の文章では、本人がその会議に参加したわけでもなく、ドキュメントが示されているわけでもなかった。何よりも、その人の文章に「第３回世界国立公園・保護地域会議」となっていることが私に疑念を抱かせた。第３回までは「世界国立公園会議」で、「世界国立公園・保護地域会議」となるのは1992年開催の第４回目以降だからである。

「国立公園」という(財)国立公園協会が発行する機関誌のバックナンバーは鹿児島大学の図書館にも保存されてはいたものの、かなりの号が欠落していた。近県では園芸・造園関係で知られる南九州大学だけが欠かさず収集していた。私が調べたい1982年と1992年前後の号はすべてそろっていた。大学の規模が大きければ自分の求める資料が揃うというものでもない。探し求める資料が数館にしか所蔵されていないケースもある。観光学としては初期の研究書が、観光学部・学科を持たない、なぜと思えるような大学図書館に存在していたこともある。

渇望していた図書との出会いは一種ロマンのようなところがある。私は図書館１階の雑誌書庫で、19世紀末のAmerican Journal of Sociology誌が保管されているのを目にしたことがある。開学よりはるか以前の雑誌が書庫に潜んでいることへの驚きは、私にとって大学図書館の魅惑の一面である。手に取ることのできる実感として紙媒体の書物の持つ喚起力は否定しがたいところがある。ただ、図書館長としての私がいま直面する課題は、本学の図書館がどのように電子媒体へ部分的に移行するかということであり、個人的な感受とは大きく離れており、その悩ましさが苦労の種である。

私と図書館 ~Book of Life~

英国図書館で考えたこと

国際文化学部教授　小林　潤司

昔からのあこがれのひとつに、図書館を仕事場にするというのがあります。図書館員になりたいというのではなくて、あくまでも利用者として図書館に通って仕事をしたいということなのですが。そんな願望を抱くようになったきっかけは確か、英文学者で随筆家の福原麟太郎のあるエッセーを読んだことだったと思います。福原先生がロンドン留学中に出会ったある学者の思い出を綴った随筆「ヘンリー・バーゲン」（研究社版『著作集』第５巻所収）です。

バーゲンは大学などに属さないフリーランスの研究者で、一生涯、ある財団の資金援助を受けながら大英博物館の閲覧室で仕事をした人だったそうです。若き日の福原先生はひょんなことからこの学者と一緒に18世紀の詩人トマス・グレイのテクスト編纂の仕事をすることになります。一語一点もおろそかにしないバーゲンの厳密な仕事ぶりを福原先生はユーモラスに紹介しておられるのですが、学生時代の私は、組織に属さずに図書館で仕事をするという学者のありかたに大いに興味を持ったのですね。そういう学者がありえるのだということに驚いたのです。

大英博物館のことを調べてみると、あのマルクスだってバーゲンと同じように組織に属さず、その閲覧室で『資本論』などの著述をしたことがわかります。世界中から集まった一流の学者や文筆家が日参し、机を並べて仕事をしている学芸の殿堂に一度は足を踏み入れてみたい、そして、できれば自分もそこで仕事をしてみたい、と素朴に思うようになったのです。

後年、ロンドン留学の機会を与えられると、まず大英博物館の閲覧室を目指したことは言うまでもありません。もっとも、その時には博物館の図書館機能はすでに独立し、グレート・ラッセル通りから移転していましたから、私が訪ねたのはセント・パンクラスの英国図書館（ブリティッシュ・ライブラリー）でしたが。

留学中は、籍を置いた大学で講義やセミナーに出るほかは英国図書館の稀覯本閲覧室で、16世紀の本をあれこれ出してもらって、研究の真似事のようなことをして悦に入っていました。古い革表紙の本と首っ引きでカードを作ったりしているだけで、自分が立派な学者になったような気がしてくるのですね。

この夏、ほぼ十年ぶりに英国図書館を訪ねて数週間仕事をすることができました。期限が切れた閲覧者証（リーダーズ・パス）を更新して、懐かしい稀覯本閲覧室に入って驚いたのは、その雰囲気が一変していたことです。十年前は持参したパソコンを使える席はごく一部に限定されていて、多くの閲覧者はノートやカードに鉛筆でメモをとっていたものですが、今ではそれが完全に逆転。パソコン不可のエリアは片隅に追いやられ、ほとんどの席ではノート型パソコンに向かってキーボードを叩いています。館内のWi-Fi接続も無料で利用できますので、私も持参したMacBookを開いて秋の学会で読む報告の原稿を書いていました。基本的な文献は普段利用しているQuestiaなどのデータベースをネットで参照できますし、特殊な文献は英国図書館の蔵書をPCで請求すれば出してもらえますから、研究の環境としては申し分ありません。いい時代になったなぁと最初は感心していたのですが、そのうちにこれがいいことづくめというわけでもないことに気づきました。

ネットに自由に接続できるというのがクセモノなんです。ご賢察の通り、ネットが使えると、ついついメールをチェックしてしまうのですね。メールを見てしまうと、ついつい返事を書いたり、依頼に応じて文書を作ったり、調べ物をしたり、問い合わせをしたり……、気がつけば坂之上にいる時とまったく変わらない仕事を英国図書館の稀覯本閲覧室でしているということになってしまう。もったいないような、贅沢なような不思議な按配です。

マルクスやバーゲンや福原先生の時代にはなかった便利な情報ツールが自由に使えるようになったのはまことに結構なことなのですが、道具が便利であれば便利であるほど、よほど用心していないと人間様のほうが道具に使われてしまうのですね。やれやれ。そんなことを英国図書館で考えた夏でした。

英国図書館の正面広場「ピアッツァ」（撮影筆者）

私と図書館 ～Book of Life～

読書の薦め

研究教育開発センター次長　藤田　淳二

私の図書館初体験は県立図書館のようだが、記憶があるのは小学校図書室である。同級生の勧めで『ドリトル先生シリーズ』を借用して読んだのを覚えている。

その後、私は『ドリトル先生シリーズ』にどっぷりとはまり、何度となく図書室で読みふけった。それは、大人になってから、このシリーズを購入した程である。

しかし、ある事から私の興味は小説から辞典類に移って行った。

小学４～５年の夏休みだったと思う。暇を持て余していた私は、ふと、『児童百科事典（大学教官の伯父から、数年前、誕生祝として贈られたものだが、あろうことか部屋の飾りになっていた）』が目にとまり、大好きな“飛行機”について解説を読んでみた。面白かった。そしてその夏、飛ばし読みではあったが、24巻全てを読みきったことがきっかけとなり、今度は事典・辞典・字典の類にはまってしまった。これは大人になっても変わらなかった。

そんな私が大学図書館に勤務することとなった。図書館蔵書を見ていると、やはり気になるのは辞典類である。しかし、個人の趣味で図書館資料を購入することはできない。そこで、予算を気にしつつ、司書の皆さんの同意を得て、本学図書館へめずらしい辞典類を少しずつ導入した記憶がある。図書館を離れて久しいので、出版年は古いかもしれないが、機会があったらご覧いただきたい。

本と言えば、「最近の子どもは本を読まなくなった」と言われている。特に高学年がそうである。大学受験や塾・ゲーム・パソコンと忙しそうである。実は、図書の専門職である司書でさえも「最近の司書は本を読まなくなった」と言われているのである。

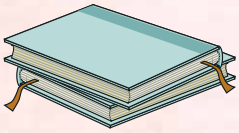
私は、本学司書講習の講師もしている。今年も38名が420時間の授業を受け、15科目の試験に合格し、司書として巣立っていった。私は彼らに「司書は読書の道案内人。司書を目指す人には、乱読でも良いので本を読んでもらいたい」と講義の中で話している。学生さんとて同様である。積極的に本を読んでもらいたいと思っている。本は、単に知識を得られるだけでなく、テレビや映画と異なり、文字から広がる豊富な想像力を培うことができる。本の世界では古の文化に生きる事もでき、お姫様にもなれる。名探偵にも、現実だと不可能な、怪盗や殺人鬼にだってなれる。心の異文化体験ができるから楽しい。

角川書店創業者の角川源義が、終戦直後の古本屋で手に取った古本の最後のページに「目がつぶれるほど本が読みたい」との落書きに感動して、安価の『角川文庫』を誕生させた話はあまりにも有名である。図書が貴重だった昔と違い、現在の読書にお金はかからない。すぐ近くに頼りになる図書館があるのだから。

図書館サポーター活動報告

活動報告

4月　新入生勧誘
5月　新入生歓迎会、
　　機関紙『晴読雨読』作成
　　第1回　選書ツアー
7月　オープンキャンパス
10月　第2回　選書ツアー



テーマ展示

3階フロアにて、各月でテーマを決め、みなさんに読んでもらいたい本を選んで展示しています。よければ手にとってみてください！！

月	テーマ
5月	絵本特集・新生活
6月	結婚、恋愛、気分があがる本、ネコ
7・8月	星、星座、イベント、ホラー
9・10月	○○な秋、ハロウィン
11月	手芸、文化、食
12月	クリスマス

最後に

図書館サポーターは、図書館業務のお手伝いや、月ごとのテーマ展示などの活動をしています。本が好きな方、司書に興味がある方、私たちと一緒に活動してみませんか？

サポーターは、赤いジャンバーを着ているので、気軽に声をかけてください。

図書館サポーターによるブログ（不定期更新）もありますので、ぜひ見てみてください。

http://iuk-plus.net/tosyokan/

あなたのお悩み解決し隊!!

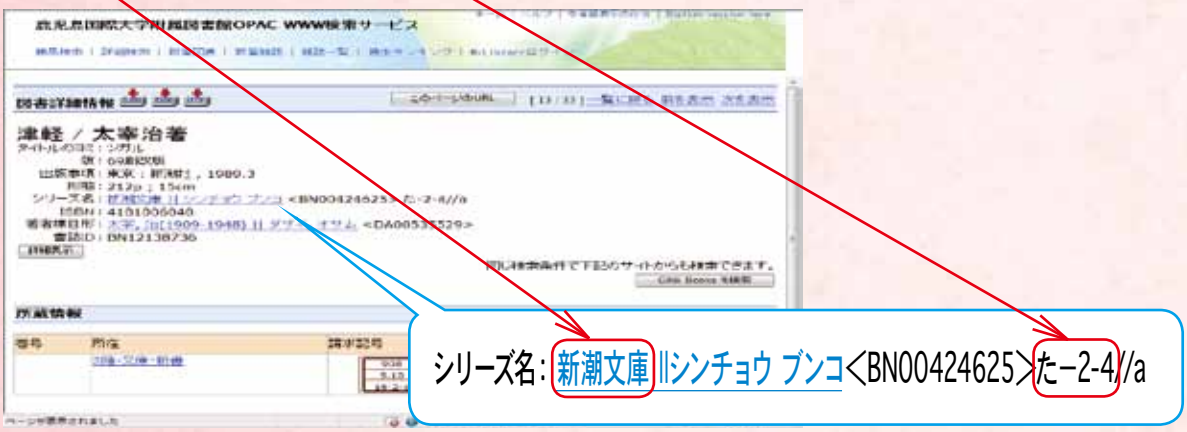
第10回：文庫・新書の探し方

OPACで探した本が、「貸出可」となっていたのに、書架になかった、という経験はないですか。探していた本は、文庫本または新書本だったかもしれません。そこで、今回は「文庫・新書の探し方」について紹介します。

新潮文庫 太宰治著『津軽』を例に探してみます。

まず、OPACで検索をします。

検索結果一覧の中から該当の本を探し、タイトルをクリックすると、「図書」詳細表示の画面になります。「所在」と「請求記号」をメモして本棚に探しに行くのですが、所在が「３階－文庫・新書」となっている本は、「シリーズ名」とその後にあるこの番号もメモをしてください。



では、３階 文庫・新書コーナーへ本を探しに行ってみましょう。

文庫・新書は、シリーズごとの順番に排架されていますので、側板からシリーズを探します。

次は、表示の番号を、棚の案内表示を頼りに探し、本の背の番号を探します。出版社によって、番号の表記が違いますが、探す要領は同じです。

所在が「文庫・新書」となっているものは、「シリーズ名」と「番号」も必ずメモして探しましょう。

Library Report

文部科学大臣委嘱司書講習

平成25年度文部科学大臣委嘱司書講習が、７月22日から９月21日まで、本学で開催されました。カリキュラムが変わって初めての講習で、暑い中、２か月間集中して行われるという、ハードスケジュールでしたが、無事に閉講式を迎えることができました。受講生が、この講習で学んだことを活かし、今後ますます活躍することを期待します。

平成25年度出張一覧表

平成25年11月30日現在

出　張　名	開催地	日　程
私立大学図書館協会西地区部会2013（平成25）年度九州地区協議会	福岡	4/18
第64回九州地区大学図書館協議会総会	福岡	4/19
平成25年度第1回鹿児島県大学図書館協議会広報委員会・研修委員会	鹿児島	5/20
平成25年度第1回大学地域コンソーシアム鹿児島地域共同リポジトリ事業部会	鹿児島	5/27
第34回鹿児島県大学図書館協議会総会	鹿児島	5/31
私立大学図書館協会2013年度西地区部会総会	三重	6/20-6/22
私立大学図書館協会西地区部会2013年度九州地区協議会九州地区研究会	福岡	9/5
私立大学図書館協会2013年度西地区部会研究会	岡山	9/9-9/10
[鹿児島大学リポジトリ]学位規則改正に伴う博士論文のインターネット公表に関する研修会	鹿児島	9/24
平成25年度第2回鹿児島大学附属図書館職員研修	鹿児島	9/27
平成25年度司書・司書補講習開講大学全国連絡協議会	滋賀	11/1～11/2

Library Report

データベース利用説明会の実施

図書館では年に数回、データベースの利用説明会を教職員・学生・大学院生を対象者に実施しています。申し込み不要で参加できます。ご存じでしたか？

本年度は『eol』利用説明会を４月23日(火)・24日(水)、11月20日(水)に、『Web of Science : SSCI』『EndNote Web』利用説明会を７月10日(水)に、『ProQuest Central』利用説明会を11月27日(水)に実施しました。『eol』は約90名、『Web of Science : SSCI』『EndNote Web』に約20名、『ProQuest Central』には約15名の参加がありました。

レポート提出・就職活動や勉学にとても役立ちます。図書館では今後も利用説明会を企画しますので、ポスター掲示等をご覧の上、是非参加してください。

新スタッフ紹介

今年度より、田平和樹課長補佐、安樂育恵総務係、上原愛情報サービス係の３名のスタッフが加わりました。上原愛さんは、10月から３月まで修学館中・高校へ出向となり、10月から石踊絵里華さんが情報サービス係に加わることになりました。どうぞよろしくお願いします。

編集後記

2013年は東京オリンピックの開催が決まり、「お・も・て・な・し」は流行語に選ばれました。本学図書館でも、スチューデント・ファーストをモットーに、豊富な蔵書や閲覧・展示・学習スペース、そして図書館スタッフの笑顔で、利用者の皆さんのお役に立てるよう努めているところです。

さて、図書館だより第34号を発行いたしました。ご覧いただき、ありがとうございます。

“図書館だより”においても、より充実していきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

図書館だより－鹿児島国際大学附属図書館報－　第34号　2013年12月21日発行
鹿児島国際大学附属図書館　〒891－0197　鹿児島市坂之上8－34－1
TEL：099－263－0732　FAX：099－261－1198　E－mail：tosyokan@ofc.iuk.ac.jp
(URL) http://www.iuk.ac.jp/tosyokan/index.php　(携帯URL) http://lbweb.iuk.ac.jp/nbp/